

# 輝かしい功績たたえ

## 10団体87個人を表彰

### 市文化賞・スポーツ賞授賞式

## 文化賞

(敬称略、順不同で掲載)

### 〔文化功労賞〕

山谷常雄(八戸市)、松橋孝徳(富  
 范町)、山谷信雄(森田町)、佐  
 藤慶五(森田町)

### 〔青少年文化賞(個人)〕

岩川由奈(木造高3年)、成田  
 千優(同2年)、今沙耶佳(同)  
 前田陽香瑠(同)、長内美咲(五  
 所高3年)、木津谷亜美(同1  
 年)、成田滯(五一高2年)、工  
 藤菜々子(同1年)、澤田胡桃  
 (五工高2年)、豊沢日乃梨(五  
 所高1年)

### 〔青少年文化賞(団体)〕

森田小学校打楽器四重奏

### 〔青少年文化奨励賞(個人)〕

佐々木麻緒(五一高3年)、寺  
 山麻佳子(同)、佐々木奈那  
 子(同)、台丸谷有真(同2年)、  
 工藤葵(同1年)、田中琴巳(同)



■文化賞受賞者



表彰を受ける青少年文化賞受賞者



独唱を披露する山谷常雄さん



謝辞を述べる山谷信雄さん

## 文化功労賞受賞者功績紹介

### 山谷 常雄 (八戸市)

#### ◆コーラス指導

文化庁の海外音楽研究派遣によるミラノ留学を経て、昭和33年以来、リサイタルを多数開催。平成3年から平成27年まで定期的につがる市のコーラスサークルを指導し、平成21・27年には市内でチャリティリサイタルを開催するなど、本市の文化振興に多大な功績を残した。

### 山谷 信雄 (森田町)

#### ◆郷土文化誌『いしがみ』の編集発行

昭和62年の創刊から平成9年まで編集責任者、平成10年から平成24年まで『いしがみ』刊行会会長ならびに発行責任者として『いしがみ』の編集発行に携わるとともに自らの執筆活動にも努め、郷土研究ならびに文化振興に多大な功績を残した。

### 松橋 孝徳 (富范町)

#### ◆文集『柏葉』・『黒松』の編集発行

昭和53年の創刊から昭和61年まで『柏葉』の編集者として、さらに平成19年の創刊から平成27年にかけて『黒松』の編集・発行者として携わるとともに自らの執筆活動にも努め、本市の文化振興に多大な功績を残した。

### 佐藤 慶五 (森田町)

#### ◆古文書研究

昭和52年、森田村古文書解説研究会の発足に尽力し、平成元年から平成5年まで同会副会長、平成6年から現在まで同会会長を務める。「盛家日記」「津軽御代々聞書」等々多数の古文書の掘り起こしとその解説書の出版に努め、郷土資料の研究に多大な功績を残した。

つがる市文化賞・スポーツ賞授賞式が2月20日、松の館で行われました。本年度は文化やスポーツで功績のあった10団体87個人が受賞。式に先立ち、文化功労賞受賞の音楽家・山谷常雄さんが独唱を披露し、式典では福島市長、葛西教育長から受賞者に表彰状と記念品が手渡されました。受賞者を代表して山谷信雄さん(森田町)は「受賞は仲間や地域の方々の支えのおかげ。これからも変わらぬご指導お願いします」と謝辞を述べました。



■スポーツ荣誉賞・スポーツ賞・ジュニアスポーツ賞（個人）受賞者

## スポーツ賞

（敬称略、順不同で掲載）

### （スポーツ荣誉賞）

米谷隆子（トライアングル青森）、加福明浩（五衛館加福道場）、成田樹（東北学院大4年）

### （スポーツ賞（団体））

つがる市野球協会、木造高等学校相撲部

### （スポーツ賞（個人））

木村協子（五所川原卓球愛好会）、山内富裕（沖館新卓球クラブ）、永田徳美（つがる市走友会）、越後谷知樹（鳥取城北高2年）、工藤千佳（木造高2年）、野宮将敬（同）、石森大誠（五農高3年）、澤田翔太（同2年）、坂本大照（同）、花田大珠（五工高2年）、傳谷谷和馬（同）、工藤颯（同3年）、川嶋峻汰（同）、工藤高也（同）、倉光駿（同2年）、中村嶺太（同）、境紗里奈（聖愛高3年）、帯川葵（同2年）、加藤佳恋（同1年）、大坂谷真生（同3年）、葛西彩海（五商高3年）、真村月（同2年）、須藤南（同1年）、傳法谷祐実（五一高1年）、小山内萌久（同）、山本菜々子（同）、津田真香（同）



■ジュニアスポーツ賞（団体）受賞者

### （ジュニアスポーツ賞（団体））

木造剣礼会、稲垣少年クラブ、つがるJVC、稲垣中学校女子バレーボール部、稲垣中学校男子バレーボール部、木造中学校相撲部、木造中学校女子バスケ部

### （ジュニアスポーツ賞（個人））

高橋杏璃（瑞穂小6年）、高橋亜胡（同4年）、加福楓（向陽小3年）、佐藤心美（牛湯小3年）、横山琉愛（稲垣小2年）、横山大土（同5年）、原田采音（森田小5年）、田戸岡創（瑞穂小4年）、工藤暁宗（森田小5年）、松橋音楽（富池小4年）、藤本爽汰（瑞穂小5年）、木村牧飛（穂波小3年）、木村雄飛（同6年）、三上遥統（瑞穂小6年）、佐藤賢弥（同）、藤本悠真（同）、高橋甲斐（同）、倉本匠（柏小6年）、對馬旺範（同）、柴谷佳太（同）、古坂裕聖（同）、長内俊太（稲垣小6年）、鈴木岳人（森田小6年）、蝦名叶多（車力小6年）、佐藤亮輔（木造中1年）、澤田佑太（同3年）、小関拓道（同2年）、鳴海篤郎（同）、鳴海匠馬（同1年）、松橋力翔（車力中1年）、佐々木琉那（同）、工藤大和（同2年）、斎藤武蔵（同3年）、石澤優茉（同2年）、坂本庸明（聖愛中2年）、松平翔（同1年）、鈴木翔太（同）



顕彰状を受け取る高橋さん(左から2人目)

## 高橋しささん100歳おめでとう

高橋しささん(木造)が1月30日、めでたく100歳を迎えられ、2月1日に短期入所先の柏風園で長寿を祝いました。

大正5年に五所川原市で生まれた高橋さんは17歳で正太郎さん(故人)と結婚して市に移住。戦後は稲作を営みながら子ども3人を育て、孫5人に恵まれました。家族によると普段は1人で食事を取り、夏は草刈りをするなど元気に過ごしているそうです。

境福祉部長より顕彰状と記念品が手渡された高橋さんは「地域のみなさんのおかげで、大きな病気もなく100歳を迎えることができた」とお礼を述べ、お祝いに駆け付けた家族や施設職員からたくさんの祝福を受けていました。

## 花田キヨさん100歳おめでとう

2月10日、花田キヨさん(木造)がめでたく100歳を迎えられ、入院先の尾野病院で顕彰状授与式が行われました。

花田さんは大正5年2月10日生まれ。亡くなった夫の作一さんと農業を営み、子ども6人、孫9人に恵まれました。若い時から裁縫が得意で、この日も自分で縫ったという素敵な着物に身を包んでいました。お祝いに駆け付けた家族は「仕事の他にも山菜取りをするなど、よく体を動かしていたのが健康の秘けつでは」と話していました。

市の境福祉部長より顕彰状と記念品が手渡された後、甘い物が大好物という花田さんに病院職員から大きなケーキが贈られていました。



顕彰状が贈られた花田さん(右)



感謝状を受け取る警察協力功労者

## 交通安全や防犯活動に貢献 警察協力功労者表彰式

平成27年警察協力功労者表彰式が1月28日、柏ふるさと交流センターで行われ、交通安全運動や防犯活動などに貢献した市内の11団体、個人11人が受賞しました。

式では、小坂一男つがる警察署長が一人一人に感謝状を手渡し、「市民が安心して生活できる安全な地域の実現のため、受賞された皆さまには、これまで同様のご支援をお願いします」と式辞を述べました。また、10人の優良警察職員も表彰され、田中正史警部補が「栄えある受賞を契機としてさらに自己を磨き、謙虚に住民の声に耳を傾け、決意を新たにより一層職務に尽くします」と受賞者を代表して誓いの言葉を述べました。

## 新・ご当地グルメ仕掛け人が講演

「新・ご当地グルメ」の仕掛け人として知られるヒロ中田さんが1月27日、松の館で講演を行いました。

中田さんは、じゃらんリサーチセンター・エグゼクティブプロデューサーとして、全国14道県で約70品の地場産品を生かした新たなご当地グルメを開発。県内では「深浦マグロステーキ丼」や「中泊メバル御膳」など4品を手掛けています。この日は、市観光物産協会研修会の講師として登壇。商品開発から事務局運営までのルールや数々の事例などを紹介し、「商品を作るのはたやすいが、続けていくのは至難の業。商品を最後まで育てる覚悟をもった人材(事務局)が必要」と話していました。



講演するヒロ中田さん

## 第2次総合計画案を答申 総合計画策定審議会

つがる市総合計画策定審議会(平井太郎会長)が2月9日、福島市長に第2次つがる市総合計画案を答申しました。

市ではこれまで市民アンケート調査や市民討議会を実施し、市民のまちづくりに関する要望を把握。審議会では計5回に渡り基本計画や基本構想等の検討を重ね、意見を集約しました。平井会長は「市民の参画を得た計画の推進、進ちよく状況を把握できる仕組みづくり、計画の趣旨や内容の情報発信を希望します」と答申書を手渡すと、福島市長は「答申の趣旨を十分尊重しながら、本計画を今後10年の指針として市政運営を進めていきたい」と話しました。

本計画は策定後、広報紙等に概要を掲載する予定です。



答申書を手渡す平井会長(右)



縄文漆器について講演する片岡さん

## JOMON亀ヶ岡文化フォーラム開催

NPO法人つがる縄文の会主催の「JOMON亀ヶ岡文化フォーラム」が2月21日、松の館で開催されました。はじめに市教育委員会の佐野忠史学芸員が、平成27年度における市内遺跡での活動状況を報告。弘前大学人文学部の片岡太郎特任助教は、縄文時代における漆工芸の最新研究について講演しました。片岡さんはX線CTスキャンで出土品を傷つけることなく、内部の構造を分析することに成功。縄文人の編み方の技法を解明したほか、縄文漆器を3次元データで保存することを可能にし、今後の活用の幅を広げました。片岡さんは「文化財を調査して良い状態で保存し、未来へつなげることが我々の大きな使命」と話していました。

## 鬼は外！ 福は内！

2月3日、市内各地の保育園や幼稚園で豆まきや節分いわし飾りなどの行事が行われました。

車力幼稚園(中畑雪子園長)ではこの日、参観日が行われ、親子一緒に節分を楽しみました。はじめに手作りの鬼のお面をかぶった全園児20人が、童謡「まめまき」と「鬼のパンツ」の元気な歌声と踊りを披露しました。その後、豆まきの由来を学習した園児たちの前に2匹の鬼が登場すると、園内は大騒ぎ。中には泣き出す子もいましたが、勇気を出して力いっぱい豆をまいていました。最後に「きちんとお片付けする」、「好き嫌いしないで何でも食べる」など、一人一人が鬼と約束の握手を交わし、みんなで仲良く記念撮影しました。



鬼を追い払う子どもたち



効果的なウォーミングアップで汗を流す参加者

## 市ジュニアランニングクラブが練習会

市ジュニアランニングクラブ(栗林輝生監督)が1月30日、柏総合体育センターで小・中学生を対象とした練習会を開催しました。これは、市内ジュニア陸上選手の走力を底上げし、県民駅伝競走大会での成績向上を図るために行われたもので、この日はトレーニングインストラクターの平沢一臣さん(深浦町)が指導。市内各地から集まった約70人の子どもたちに、効果的なウォーミングアップや実践に役立つ練習のポイントを伝えていました。平沢さんは「正しく走るためには、正しい姿勢で立つことが大事。体幹を意識して、頭を使いながら体を動かしましょう」と話していました。練習後は参加者全員で豚汁を食べながら交流を深めていました。